

## 私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「整形外科」

信州大学医学部運動機能学教室

田中厚誌

なぜ私が整形外科医となったのか。初期研修医時代の最初の指導医に憧れたこと、手術を受けた患者さんが元気に歩いて退院される姿を目の当たりにしたこと、手術が多くスキルアップが早いこと、加藤前教授をはじめとし信州大学整形外科医局の雰囲気良かったこと、兄が骨腫瘍の手術を受けたことなど様々な理由があり、気がついたら整形外科医になっていました。

私は現在、整形外科の中でもマイナー分野である腫瘍班に所属しています。骨軟部に発生した腫瘍を扱いますが、体中のどこにでも生じるため様々な部位の手術を行います。このため定型的な手術がほとんどなく

入念な計画が必要ですが、毎回の手術が新鮮でとても刺激的です。また悪性腫瘍の患者さんがいらっしゃるので、手術のみならず化学療法、緩和医療、終末期医療も行います。人の生き死に関わることで、医師としてだけではなく一人の人間として、物事に対する視点が変わってきたように思います。

医師となり16年が経過しましたが、まだまだ知らないこと、出来ないことがたくさんあります。ともすれば忘れがちな初心を忘れることなく、日々研鑽していきたいと考えています。最後に、信州大学整形外科は高橋教授のもと、「信州から世界へ」を合い言葉に一丸となって診療、研究に取り組んでいます。同じ目標を共有する人達と働くことができ、非常にやりがいを感じています。研修医の皆さん、学生の皆さん、いつか一緒に働けることを楽しみにしています！

(高知大平18年卒)

## 私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「呼吸器外科学」

信州大学医学部外科学教室呼吸器外科学分野

三島修治

私が外科医を選んだきっかけは、同じ呼吸器外科医である父の存在が大きいに思います。とはいっても、自分に合っていなければ他の科を選択していたでしょうし、ここでは呼吸器外科の魅力と、信州大学呼吸器外科学教室の魅力をお話したいと思います。

後期研修で一通りの分野を勉強してきましたが、肺癌ほど治療に大きなパラダイムシフトが起こっている領域はないのではないかと思います。肺癌の手術は、日本発の臨床研究によって標準術式が変わろうとしており、さらに化学療法の進歩によって、集学的治療の一つとしての手術の立ち位置も変化しようとしています。これまでにない大きい変化が起こっているなかで、目の前の患者さんに最適な医療を提供するためには、最新の介入研究/観察研究を日々収集し、正しく検証し適応する能力が必要不可欠です。さらに、未来の患

者さんのために、自らのもつ経験や知見をもとに、新しい視点で研究を立案する必要もあります。このように、特に今の時代の呼吸器外科医には academic な要素が必要不可欠になっています。それに加え、手術では一つの些細な間違いが命取りになる、繊細な手技が求められる大変厳しい世界です。私は、呼吸器外科には学術と手術の両方において、他の領域では得がたいものがあると感じ、呼吸器外科医を生涯にわたって続けていきたいと考えました。

実は、2019年に清水教授とお会いするまで、医局に入ることは全く考えておらず、市中病院で研修をしていました。しかし、当教室が目指す academic surgeon の育成という、まさに私の目標と合致する方針に惹かれ、2021年に入局させていただきました。当教室では、清水教授、濱中准教授、江口講師のもと、これまで以上に基礎を含めた研究と臨床を共に高いレベルで行っています。そして、私のように academic surgeon を目指して入局を希望する先生も増えており、近い将来、日本を代表する呼吸器外科教室として名を轟かせる日がくると確信しています。

(愛媛大平27年卒)